

わたしの好きな よりのい

No.141

今月号で皆さんにご紹介するのは、円良田湖のワカサギ釣りの風景です。ワカサギ釣りという氷に穴をあけて釣る“穴釣り”を思いうかべる方が多いと思いますが、円良田湖では、冬期でも湖面が凍結しないため、主に栈橋とボートでの釣りとなります。

毎年、気温がぐっと下がる11月下旬に解禁となり、解禁直後には、700匹も釣りあげた人もいるそうです。

円良田湖は、昭和30年に灌漑用貯水池として造られた人造湖で、少林寺へ続く山道には椿、紅梅、寒桜が植えられ、時期になるとハイカーの目を楽ませてくれます。また、湖では年間を通じてヘラブナ釣りも楽しめます。

ワカサギ釣りは、ヘラブナ釣りとは異なり、簡単な仕掛けで、誰にでも気軽に楽しむことができます。釣り糸に何匹も連なるワカサギが、湖面から姿を見せる様子は、厳しい寒さも忘れてしまうほどです。2月下旬まで楽しむことができますので、皆さんも冬の自然と親しみながらのワカサギ釣りにチャレンジしてみたいはいかがでしょうか。



<シーズン到来>



わが町の 達人 洋服のデザイン・縫製の達人



中野綾子さん (中小前田)

最近では、自分で洋服を作る人が少なくなってきました。お店に行けば、手ごろな価格でいろいろなデザイン・サイズのものがあります。私自身も既製品を買うことが多くなってきました。

そんな中、昨年10月にかわせみ荘から洋裁教室の講師の依頼がありました。内容はミシンを使わない手

このコーナーは、「寄居生活学の達人」として町に登録をいただいている町民講師の方々を中心に、そのうちくちや技術、体験などを町民の皆さんに紹介するコーナーです。

縫いの教室とのこと。いろいろと考えた結果、ブラウスとスカートを作ることになりました。この教室は、1回3時間、計4回の教室で、作品を完成させるには短い時間でしたが、参加した皆さんは楽しそうに針を進め、ほとんどの方が期間内に作品を完成することができました。

ここで、洋裁の手順を簡単にご説明します。まずは製図です。製図とは、型紙を起こす前の寸法図面ともいえるでしょう。自分の体型にフィットした仕上がりには、まず、下着をつけて正しく自分のサイズを図ることが大切です。これを基に型紙を起こします。次に裁断し、仮縫いをした後、自分の体にフィットするよう補正をし、いよいよ本縫いとなります。本縫いの順序は、一応基本はありますが、デザインなどによっても異なりますので、自分でやりやすい順序で楽しく縫えばよいと思います。

最近では、和服から洋服へのリフォームなど個性的な洋服も見られる

ようになりました。皆さんも手作り洋裁を見直し、ぜひチャレンジしてみてください。

私は、学校ボランティアとして小学校で洋裁の授業のお手伝いをさせていただいています。子どもたちが、少しでも“自分で作ることの楽しさ”を感じてもらえれば幸いです。

その他にも、鳴子踊り (YOSAKOI 楽・音) の衣装を任せていただいております。デザインを考えるのも楽しみの一つになっています。自分でデザインし縫製した衣装を着て、北海道での演舞にも参加しました。

これからも“自分で作ることの楽しさ”を少しでも皆さんに伝えられるように、いろいろなことにチャレンジしていきたいと思っています。



洋裁教室での作品